



Jリート市場の現状と見通し : 2023年3月(月中版)

2023年3月1日~15日

◆ 最近の動向

3月前半はレンジでの動きの中、やや売りが優勢になりました。インフレ高止まりで米連邦準備理事会(FRB)の利上げが長引くとの観測が強まる中、米金利の高止まりを嫌気して売りに押されたものの、押し目買いも入り底堅く推移しました。パウエルFRB議長が利上げを加速させる可能性があるとの認識を示したことは重しになりました。その後は長期金利の低下を受けて、資金調達コストが低下するとの見方は支えになりましたが、米銀が相次いで経営破綻したことを受け投資家心理が悪化し、やや売りに押されました。

今後は、米金融政策や米金融システムの落ち着きなどを確認しながらの、一進一退の動きを想定します。日銀が大規模な金融緩和を維持したことを受け、政策修正への過度な警戒は後退しています。2月の東京都心のオフィス空室率が2か月連続で低下したことや、長期金利が大きく低下していることは下支え材料です。FRBが米連邦公開市場委員会(FOMC)で金融引締めに慎重な姿勢を示すと、安心感が広がる可能性があります。とはいえ、米金融システムへの不安は完全には払しょくされておらず、市場の重しになりそうです。

なお、3月15日時点で、日銀による3月のJリート買入はありませんでした。

◆ 2月時点の東京都心のオフィス空室率、賃料

竣工1年未満の大規模ビルに成約が進んだことや、ビジネス地区外からの拡張移転などに伴う成約が見られたため、空室率は6.15%と前月から0.11ポイント低下。賃料は2万14円と、31か月連続で下落。

◆ 2月のリート(東証)投資部門別売買状況

海外投資家は売り越し継続。投信、銀行(除く日銀)は買い越し継続。



図表3. マーケット動向

	2022/ 12/30	2023/ 1/31	2023/ 2/28	2023/ 3/15	騰落率(利回り、金利は変化幅)		
					年初末	2月	3月
東証REIT指数 (配当なし)	1,894.06	1,826.84	1,843.21	1,803.94	-4.76%	0.90%	-2.13%
(配当込み)	4,403.82	4,263.06	4,331.37	4,239.09	-3.74%	1.60%	-2.13%
東証REITオフィス指数	1,763.87	1,687.71	1,707.53	1,657.48	-6.03%	1.17%	-2.93%
東証REIT商業・物流等指数	2,401.06	2,338.83	2,329.84	2,300.29	-4.20%	-0.38%	-1.27%
東証REIT住宅指数	3,076.13	2,936.41	3,090.41	3,011.40	-2.10%	5.24%	-2.56%
TOPIX (配当なし)	1,891.71	1,975.27	1,993.28	1,960.12	3.62%	0.91%	-1.66%
(配当込み)	3,101.25	3,238.48	3,269.12	3,214.73	3.66%	0.95%	-1.66%
予想分配金利回り(東証上場REIT、%)	3.968	4.153	4.149	4.239	0.271	-0.004	0.090
東証プライム配当利回り(%)	2.623	2.520	2.522	2.563	-0.060	0.002	0.041
新発10年国債利回り(%)	0.410	0.490	0.500	0.320	-0.090	0.010	-0.180

(注1) データは3/15現在

(注2) 予想分配金利回りはQUICK算出

(出所) Bloomberg、QUICK、日銀よりデータ取得し、しんきん投信作成

	今年の累計	2月	3月
日銀のJリート買入額(億円)	0	0	0

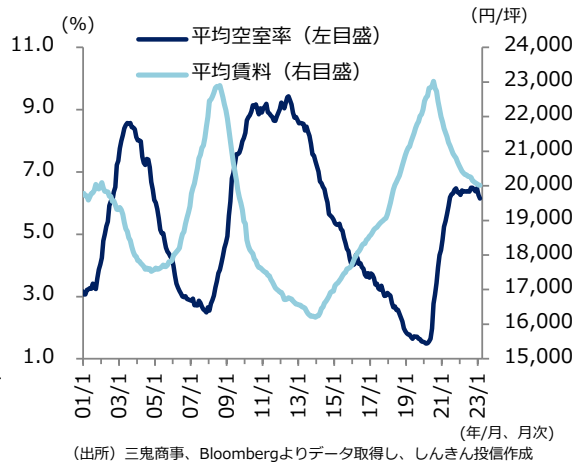


しんきんアセットマネジメント投信株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長(金商) 第338号
Shinkin Asset Management Co., Ltd. 加入協会/一般社団法人投資信託協会 一般社団法人日本投資顧問業協会
 〒104-0031 東京都中央区京橋3丁目8番1号 URL: [https:// www.skam.co.jp](https://www.skam.co.jp)

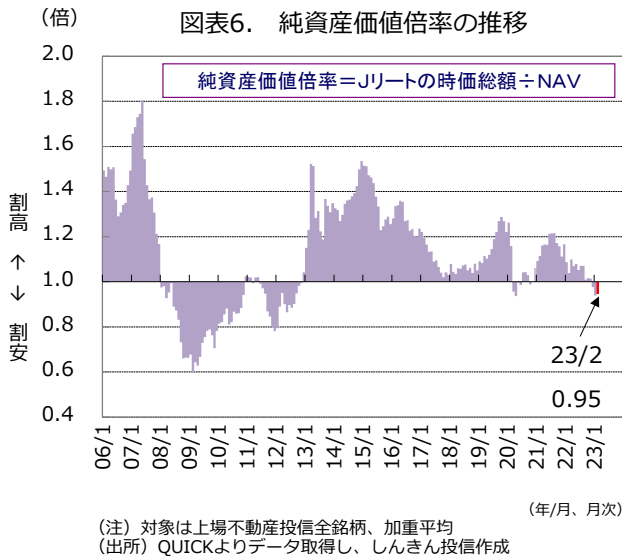
図表4. 予想分配金利回り



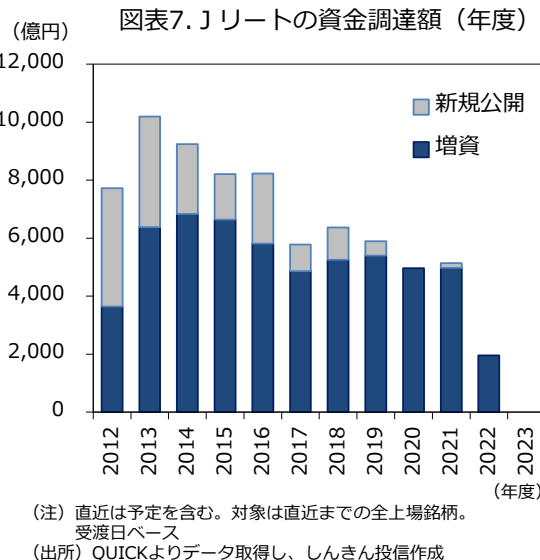
図表5. 東京都心の空室率および賃料



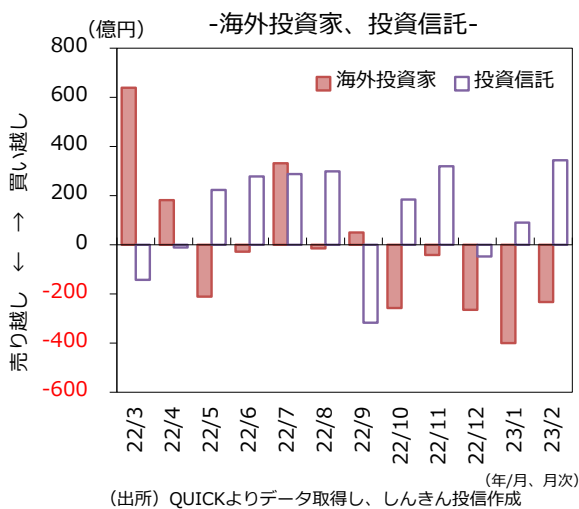
図表6. 純資産価値倍率の推移



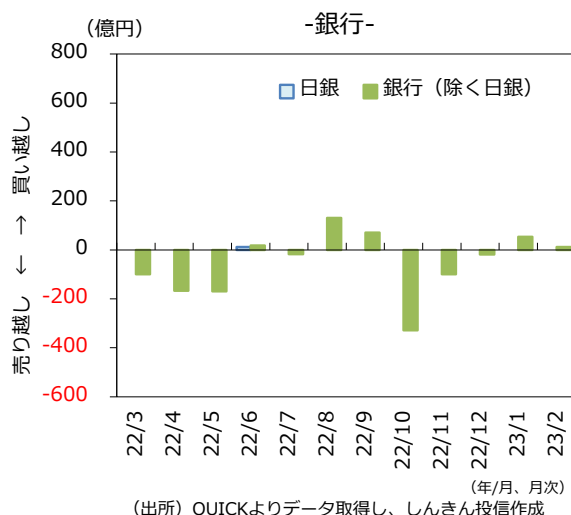
図表7. Jリートの資金調達額 (年度)



図表8. Jリートの投資部門別売買状況



図表9. Jリートの投資部門別売買状況



※図表6: NAVとは、Jリートの純資産価値を意味し、Jリートの適正価値を図る指標のひとつです。投資法人の資産の時価評価額から、借入などの有利子負債やテナントからの敷金及び保証金などを差し引いて求めます。NAVは投資法人の純資産を時価評価したものであり、Jリートの解散価値とも言われます。NAVを投資口数で割ることで、一口当たりNAVが求められ、投資口価格と比較することで投資法人の割高割安を比較することができます。

(2023/3/16 作成)



<本資料に関してご留意していただきたい事項>

- ※本資料は、ご投資家の皆様に投資判断の参考となる情報の提供を目的として、しんきんアセットマネジメント投信株式会社が作成した資料であり、金融商品取引法に基づく開示資料ではありません。
- ※本資料は、信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。また、いかなるデータも過去のものであり、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。
- ※本資料の内容は、当社の見解を示しているに過ぎず、将来の投資成果を保証・示唆するものではありません。記載内容は作成時点のものであり、予告なく変更する場合があります。
- ※投資信託は、預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の補償の対象ではありません。また、登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象ではありません。
- ※投資信託は、値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。
- ※特定ファンドの取得のお申込みに当たっては、販売会社より当該ファンドの投資信託説明書(交付目論見書)をあらかじめ又は同時にお渡しいたしますので、必ず内容をご確認の上、ご自身でご判断ください。

【お申込みに際しての留意事項】

■ 投資信託に係るリスクについて

投資信託は、株式や債券等の値動きのある有価証券等(外貨建資産には為替リスクもあります)に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、預金と異なり投資元本が保証されているものではありません。運用による損益は全て投資者の皆様に帰属します。

また、投資信託は、個別の投資信託ごとに投資対象資産の種類や投資制限、取引市場、投資対象国等が異なることから、リスクの内容や性質が異なりますので、ご投資に当たっては投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくご覧ください。

■ 投資信託に係る費用について

(お客様に直接ご負担いただく費用)

- ◆ ご購入時の費用・・・購入時手数料 **上限 3.3%(税抜 3.0%)**
- ◆ ご換金時の費用・・・信託財産留保額 **上限 0.3%**

(保有期間中に間接的にご負担いただく費用)

- ◆ 運用管理費用(信託報酬)・・・純資産総額に対して、**上限年率 1.628%(税抜年率 1.48%)**
- ◆ その他の費用・・・監査費用、信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用、有価証券売買時の売買手数料等および外貨建資産の保管等に要する費用は、ファンドより実費として間接的にご負担いただきます。また、投資信託証券を組み入れる場合には、お客様が間接的に支払う費用として、当該ファンドの資産から支払われる運用管理費用、投資資産の取引費用等が発生します。これらの費用につきましては、運用状況等により変動するものであり、事前に料率、上限額等を示すことができません。投資信託に係る上記費用(手数料等)の合計額については、ご投資家の皆様がファンドを保有される期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

《ご注意》

上記に記載しているリスクや費用につきましては、一般的な投資信託を想定しております。費用の料率につきましては、しんきんアセットマネジメント投信が運用する全ての投資信託のうち、ご負担いただくそれぞれの費用における最高の料率を記載しております。投資信託に係るリスクや費用は、それぞれの投資信託により異なりますので、ご投資される際には、事前に投資信託説明書(交付目論見書)や契約締結前交付書面をよくお読みください。

※本資料で使用している各指数に関する著作権等の知的財産権、その他一切の権利はそれぞれの指数の開発元もしくは公表元に帰属します。